

ホタテ生存率アップ

落部の佐々木監事、ナノバブル導入

耳づり稚貝大半が正常

水産日本
打開力

渡島噴火湾版



佐々木正広監事

ホタテ養殖にナノバブル技術を取り入れた落部



水槽内に設置するナノバブル発生装置（上）と順調に成長した耳づり用の稚貝

漁協の佐々木正広監事は、成貝、稚貝とも予想以上の高い生存率に驚いている。ことしは噴火湾全域でへい死被害が多発している中、「耳づり用の稚貝は8割以上が正常だった。変形や欠刻が少

ない」と話す。

ナノバブルは肉眼で見えない微小気泡のこと。静止した水中では1μmの気泡が1層の深さから水面に上がるまで1秒かかるが、ナノバブルは理論上、3年間上がらない研究成果が示されている。酸素ポンプやポンプを



用意し水槽内にナノバブル発生装置を投入するだけ。佐々木監事は5年ほど前から3年貝向けに導入した。採苗や本分散でも使用。「30分以上漬けるだけ。器具の設置は簡単で、価格もリーズナブル」と説明する。

導入後、稚貝の生存率は9割以上に上った。しかし、ことしは噴火湾全域でへい死が多発したため「正直、不安だったがここまで死なずに成長するとは予想以上」と興奮気味。ホヤの採苗・養殖にも使用しており「魚やエビなどの畜養にも効果的では」と話す。